

園名 河合町立かがやきの森こども園

はばたくなら⑤

自然との関わりを通して豊かな心と感性を育む

5歳児

取組について

○本園は、四季折々の自然を感じることができる馬見丘陵公園に隣接する場所に令和2年4月に開園した。自然豊かな地を活かし、食育に繋げるため、農園「森森ファーム」では季節の野菜の植え、収穫した野菜を食材にして給食で食べたり、保育室では夏野菜と冬野菜を一人一鉢育て実った野菜を家庭に持ち帰り家族で食べたりしている。しかし近年、YouTubeやゲーム機等が普及し、子どもたちが自然に触れる機会が年々減少している。子ども達の会話でもYouTubeやゲーム機等の話が非常に多い。その一方で、戸外に出ると虫を探したり花壇の花を観察したりする子どもも多く、自然に興味や関心を示す姿もある。子どもたちには園外保育活動の場を増やし、自然に触れる機会を多く設け、たくさん刺激を受けながら、生き生きのびのび活動してもらいたい。

○そこで自然とのふれあいを通して植物や昆虫などの観察をし、情報交換や情報共有することが3つの教育課題につながると思い、実践に取り組んだ。

自尊感情… 自然の中で友達と共同体験をすることで、自己への気づきが増えるのではないだろうか。

規範意識… 発見や驚きを友達と共有し、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを大切にしたりすることで、思いやりをもって人と関わることにつながる。

学習意欲… 絵本や図鑑等を活用し、子どもたちの好奇心や探求心を育む。

実践事例 ■ 自尊感情 ■ 規範意識 ■ 学習意欲 ■ ねらい: 身近な環境に自ら関わり、発見を楽しんだり考えたりし、豊かな心と感性を育む。

実践事例①

春

・散歩

「ツツジ甘い匂いがするよ。」
「本当だね。ハチミツみたい！」



「わあ！桜めっちゃ綺麗！」「下に落ちている花びらも小さくて可愛いよ。」「本当だね。可愛い！」と友達と会話を楽しむ。

「あ！タケノコ生えてる！」「5月の月刊絵本にタケノコ載っていたよね。」「こうやってタケノコって生えてるんや！」



「ネモフィラだ！」「お花の名前知っているのすごいね。」
「ありがとう。図鑑に載ってたよ！また一緒に見よう。」

・タケノコを作りたい

子どもの姿

散歩でタケノコを見つけた後、園に戻って図鑑で調べる姿があった。給食にタケノコが出る日があり「散歩で見つけたタケノコや！」と喜ぶ声があった。その興味からタケノコの生長動画をみたり、皮むき体験をしたりする機会を設けた。するとある日保育室のベランダからタケノコが生えているのを見つけた子どもたち。

環境構成・援助

・発見を楽しんだり、驚きを友達と共有したりするよう事前に公園内に咲いている植物を調べる。
・様々な遊びのイメージに応じて使える素材や材料を豊富に準備する。



「タケノコって3日でこんなに伸びるの?!」「すごい！生長早すぎる！」
「大きくなったら竹になるんだね。」と感じたことや考えたことを友達と話している。

タケノコの皮むきを体験した。「皮の色って茶色だけじゃなくて焦げ茶色、黄緑色、黄土色色んな色があるな!」「皮って結構硬くて大きいな。」

「あ！タケノコ生えてる!」「あの長さは1週間ぐらい経ってるんかな?」と友達と予測を立てている。

毎日タケノコの生長を観察すると共に、遊びでは友達と話しながら皮を切る子と貼る子に分かれ、トイレトーパーの芯を使ってタケノコ作りを進める姿があった。

完成したタケノコを園庭の花壇に立てて、満足気な子どもたち。皮を表現するために色々な色の画用紙を使い、本物みたいなタケノコができました。

実践事例②

夏

・散歩

夏になり開花したアジサイに気付くことができた。
「ピンクだけじゃなくて、水色と紫色もある！」
「綺麗だね。」「小さい花びらが可愛いよ。」



「この綺麗な花はなんて名前かな？」「ヒマワリみたいだけどちょっと違うね。」「またこども園に帰ったら図鑑で調べよう！」と友達と話し合う姿がある。

散歩後は見つけた植物だけでなく、メジロやカナヘビ等の生き物も図鑑で調べる姿があった。ヒマワりに似た花を図鑑で調べると『ルドベキア』という花だった。

子どもの姿

園に戻って早速、画用紙や段ボールを使ってアジサイやルドベキアの花畑を作る姿があった。出来上がると招待状を書き、年中組のお友達を招待した。自分たちの遊びを紹介することができ、満足感や充実感を味わっているようだった。

環境構成・援助

・身近な自然の変化に興味や関心が高まるように 絵本や図鑑を用意する。
・友達と試したり考えたりすることを楽しみ、自分達で取り組んで充実感を味わえるようにする。

・花畑作り



「いっぱい作ってアジサイ畑にしたいな。」「いいね！」
「花切るのが上手やな！」「そうかな？教えてあげるよ！」

年中組さんが自分達で作った花畑を見に来てくれて嬉しそうなお姿が見受けられた。「こっちはだよ。」と誘導したり優しく接したりする姿もあった。

健康な心と体 散歩を通してのびのび身体を動かす。	自立心 身近な環境に主体的に関わり、活動を楽しむ。	協同性 友達と共通の目的に向かって、遊びを進める。	道徳性・規範意識の芽生え 相手の立場に立って行動し友達の気持ちに共感する。	社会生活との関わり 異年齢児と関わりを深め思いやりの気持ちをもつ。
思考力の芽生え 自然との触れ合いの中で好奇心や探求心をもつ。	自然との関わり生命尊重 自然の美しさ、不思議さ、大きさに気付く。	数量・図形・文字への関心 タケノコの長さ、形に興味や関心をもつ。	言葉による伝え合い 感じたことや考えたことを友達に伝える。	豊かな感性と表現 心動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。

森森ファームにて 野菜の収穫

春

・スナップエンドウ
・タマネギ



夏

・トウモロコシ
・ジャガイモ



秋

・サツマイモ



冬

・ダイコン
・シモネタネギ



ボランティアの方の協力のもと給食で使用する野菜の収穫を1年間通して体験した。野菜の収穫を通して、地域の方との交流が増えた。優しく接してもらっている中で、自ら「ありがとう」の気持ちを伝えていく姿があった。

(まとめ)

・地域の自然や人等の園外の環境を活用していくことは、教育及び保育を行っていく上で大事なことだと思う。ただ散歩に行くだけでなく、意図をもって園外に出ることで自然や人により興味や関心をもち、環境に深く関わることで、子どもの可能性を探求していき、豊かな学びに繋がると感じる。

(成果)

・自然との関わりの中で「これは何だろう？」「綺麗だね。」「わあ、すごい！」等の感性が生まれた。感性が育まれることにより、好奇心、探求心が養われると考える。
・馬見丘陵公園への散歩を継続することで感じたことや考えたことを友達と楽しく話す姿が増えた。その会話から友達との仲も深まり、遊びでも声を掛け合って試したり工夫したりしながら協力して遊びを進めようとする力が身に付いた。

(課題)

・子どもたちの活動がより良くなるために、保育者は常に園児と生活を共にしながら、園児が何に興味をもち、何を考え、何を実現しようとしているのか等把握する必要がある。
・野菜の収穫を通じた地域の方との交流は今後も続けていきたい。触れ合いの中で、地域の方から受け入れられているという自己肯定感と共に、相手や周りのことを思いやれる心を育てていきたい。また、人は一人で生きていけない、助け助けられるという経験を通して自立性、社会性も育んでいけたらと思う。